

献辞

田口信夫教授は、昭和20年7月に長崎で生まれ、昭和44年3月に長崎大学経済学部を卒業後、同年4月に京都大学大学院経済学研究科に進学され、昭和47年4月に長崎大学経済学部助手として採用されました。本学部に就職されてからは、昭和49年1月に経済学部講師、昭和52年7月に助教授、平成元年8月に教授に昇進され、平成23年3月31日をもって長崎大学経済学部を定年退職されました。長崎大学は、先生の在任中の業績を讃え、平成23年4月22日付けで長崎大学名誉教授の称号を授与しました。

先生は、本学部では主に国際投資論を担当されてきました。本講義科目は、平成9年のコース制移行後は、国際関係コースのコース基礎科目となっているものです。先生は、同コースにおける専門教育の中核を担って来られたと言っても過言ではありません。このほか、学部においては、基礎ゼミ、専門ゼミ、卒研ゼミ、全学教育においては、経済と経営、教養セミナー、さらに、博士前期課程においては、日本・アジア国際開発特講、博士後期課程においては、国際投資特論を担当されました。これら学部及び大学院の指導を通じて、多くの有為な人材を社会に送りだされてきました。

研究面では、先生は、アジア諸国の経済発展、産業空洞化、南北問題や貿易論など幅広く多様なテーマに取り組んでこられ、それぞれにおいて業績をあげておられます。これらのテーマは、いずれも研究対象となる現実の変化が激しいものですが、先生は、一貫して、内外の多くのデータや統計に基づいて現実を真摯に捉え、その中で日本の果たすべき役割や国民の幸福を明らかにしようとされてきました。平成23年2月に行われた最終講義のタイトルは、「経済発展と国民総幸福 - ブータンの国造りの視点から - 」というものでしたが、そのタイトルに先生がこれまでの研究を通じて追及されてきた熱い思いが凝縮されている思いがします。

社会貢献の面では、長崎市都市計画審議会委員，長崎商工会議所まちづくり協議会副会長などを歴任されておられます。長崎市は、先生これらの協力に対して、平成13年に表彰をしています。

組織運営面では、平成5年から平成16年まで経済学科長を長きにわたり務められ、この間、平成11年から平成16年までは長崎大学評議員もお務めになりました。先生がこれらの要職に就いておられる期間は、本学部が、修士課程や博士後期課程の設置に向けて活動をしていた時期と重なります。この大学院設置の過程でも、先生は多大な貢献をされてこられました。このほかにも、経済学部の学生委員長，留学生委員長など各種委員会の委員長も歴任されました。

以上のように、先生は、本学部に長年奉職され、評議員や学科長などの業務にも従事されてこられました。長崎で生まれ、長崎で育ち、長崎大学に長年ご勤務された先生は、非常に温厚なお人柄です。このような人柄にひかれ、田口ゼミは、学生から非常に人気のあるゼミでした。本年4月からは長崎ウエスレヤン大学現代社会学部経済政策学科にお勤めになられていますが、本学部におられた時と同じく多くの学生に慕われていることと思います。田口先生の本学部に対する長年にわたる多大な貢献に、教職員を代表して改めて感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念して、献辞とさせていただきます。

平成23年 8月

長崎大学経済学会長

長崎大学経済学部長

岡 田 裕 正



田口信夫教授